

花の雨

加古宗也句集

Kako Soya

角川平成俳句叢書 06

角川書店

◆ プログラム

1. La Serenata (セレナータ)

作詩 G.A.チェザレオ
作曲 トステイ
編曲 向川原 慎一

2. 俳句「花鳥風月」

- (1) 花の雨
- (2) 鳩くくと
- (3) 夕風や
- (4) 桐櫓(きりぼた)の

作句 加古 宗也
作曲 向川原 慎一

3. 花

作詞 武島 羽衣
作曲 滝 廉太郎
編曲 なりたまさと



指揮 向川原 慎一
ピアノ 早瀬 洋子
朗読 永井 一美

加古宗也主宰句集「花の雨」出版記念祝賀会

幽玄にして繊細な旋律

「花の雨」を唄う男声合唱団

石崎 白泉

朝までの雨も上がった二月二十八日、加古主宰の第三句集「花の雨」の出版記念祝賀会が盛大に開かれた。名古屋マリオットアソシアホテル十六階のホールは、参加者で溢れた。和服姿も多く、華やいだ雰囲気の中、正午にスタート。

渡辺たけし同人の開宴の言葉の後、来賓の神奈川大名管教授・復本一郎氏と作家・村上護氏の祝辞をいただいた。

続いて舞台はがらりと変わり、緋毛氈を踏んで高座に上がったのは落語家・柳亭市馬師匠である。柳家小さんの高弟で、落語界きっての美声の持ち主で、当日披露した相撲の呼出しも見事であった。最近の話題で囁き入り、俳句も題材にして聴衆の笑いを誘ったのは流石だった。

次に「春野」副主宰・ながさく清江氏の乾杯の音頭で会食に。会食の間に、主宰の親しい友人である来賓の皆さんのスピーチがあり、明るく自由な雰囲気ではじめられた。

スピーチと食事がほぼ終わったところで、祝賀会の目玉企画

である男声合唱団グランフォニックのコンサートが始まる。この合唱団は名古屋を中心に活躍しており、「歌を通じて生きる喜びを感じ、伝える」を理念としている。祝賀会には指揮者を含め四十五名の団員が出演した。今回のコンサートのハイライトは、「花鳥風詠」の曲である。この曲は、句集「花の雨」から「花の雨熱きものいま身辺りに」へ鳩くくとくくと八坂の夕桜へ夕風や水口に置く余り苗などの四句を選び、指揮者・向川原慎一氏が作曲したオリジナル曲である。加古主宰の骨太な温かみのある句を、幽玄にして繊細な旋律で仕上げられている。主宰の主張する「生きていく証」が歌を通じて「確かな感動」として伝わってくる大合唱であった。

加古主宰は、金子あきま同人からお祝いの花束を受けた後、お礼の言葉と今後の決意を語った。花鳥風詠の曲に感激したこと、この会を盛り上げた暖かい人びとの繋がりを大事にすること、いまの感動を心の糧にしてゆきたいと心づめて語られた。我々「若竹」一門にとっては心強い限りである。

その後、若竹編集長田口風子同人のお開きのあいさつがあり、盛況裡に終了した。司会は服部くから、池田あや美両同人が担当した。

早い機会に、第四句集が上梓されることを期待しながら散